

## ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号632号

発行 令和6年11月10日

毎月10日発行 定価100円  
(維持会費に含む)

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話(011)222-4839

FAX(011)222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会  
細川久美子

### 子供たちの未来を守るために―『第三の居場所』の重要性

公益財団法人ふきのとう文庫 評議員 新堀 裕 幸

現代日本における少子高齢化は、社会のさまざまな分野に影響を及ぼしており、特に子供を取り巻く環境は深刻な変化を迎えています。共働き家庭の増加、シングルマザー家庭の増加、さらには里親制度の必要性の高まりなど、これらの現象は家庭だけでなく、社会全体が子供たちをどのように支え、育んでいくかを問いかけています。特に、家庭や学校に次ぐ「第三の居場所」としての役割が、これまで以上に注目されています。

この第三の居場所とは、子供たちが学校以外の時間を過ごすための安全で安心な環境を提供する場所です。この場所は、家庭環境が十分に整っていない子供や、育児の支援が必要な家庭にとって、心の拠り所であり、社会的な繋がりを築く場でもあります。「ふきのとう文庫」も、このような居場所を提供するための施設を運営しています。ここでは、子供たちが自由に過ごしながら、心の安定を図り、成長するための機会を提供しています。このような場が今後ますます重要になると考えていますが、残念ながら、我が国の政策はまだ十分に行き届いていない状況です。

少子化に伴う育児支援の重要性が叫ばれる中、実際のところ、行政の支援は十分とはいえません。例えば、シングルマザーの家庭では、経済的な負担が大きく、保育施設や学童クラブだけでは子供のケアを完全に補うことが難しい状況があります。また、里親制度に目を向けると、子供たちの一時的な居場所として里親の役割は重要ですが、その数は決して十分ではなく、

支援制度も複雑で多くの人々にとってアクセスが困難です。

こうした背景から、私たちは社会的課題としての「第三の居場所」について考えなければなりません。子供たちが家庭でも学校でもない、もう一つの安心できる居場所を必要としています。特に、親が仕事で家を空ける時間が長い家庭や、育児の孤立感に悩む親にとって、この「第三の居場所」は重要な役割を果たします。このような施設は、単に子供を預かるだけでなく、彼らが社会との繋がりを感じ、安心して自分自身を表現できる場として機能します。

私は社会保険労務士として、子供やその家族を取り巻く環境に深い関心を持っています。働く親たちの権

(次ページに続く)

#### プロフィール



昭和三十六年二月十六日生まれ

六十三歳

岩内生まれ／札幌育ち

新堀社会保険労務士事務所 代表

(特定社会保険労務士)

・北海道大学公共政策大学院修了(公共政策学修士)

・北海道大学大学院公共政策学研究センター 連携研究員

・北海道大学先端人材育成センター上級人材育成部門

・北海道大学先端人材育成センター上級人材育成部門

・北海道大学先端人材育成センター上級人材育成部門

・北海道大学先端人材育成センター上級人材育成部門

利を守り、労働環境の改善に取り組む中で、特に育児や家庭環境のサポートが十分でない状況を目の当たりにしてきました。少子高齢化に伴い、働き手の確保が求められる一方で、親が安心して仕事を続けられる社会的な仕組みが未だに十分ではないことが問題です。また、就労支援だけでなく、地域社会全体が子供たちの成長を支える仕組みを整えることが急務です。これは、単に保育所や学校の枠を超え、地域の中で子供たちが自由に過ごせる場所を増やすことを意味します。第三の居場所が、子供たちにとって「家でも学校でもないけれど、自分が安心して過ごせる場」であるためには、行政や企業、地域コミュニティが一体となって取り組む必要があります。

今後、少子高齢化がさらに進む中で、社会全体で子供たちの成長を支えるための政策が求められます。具体的には、第三の居場所を提供する施設の拡充や、そこに携わるスタッフへの支援が不可欠です。また、行政の補助金制度や企業の育児支援策を充実させ、働きながら安心して子供を育てられる環境を整えることも重要です。私たちが目指すべき社会は、すべての子供たちが安心して成長できる環境を提供することです。そのために、私たち一人一人が何をできるかを考え、行動することが求められています。第三の居場所の存在は、その一助となり、未来を担う子供たちにとって、かけがえのない支えとなることでしょう。社会保険労務士として、また公益財団法人の関係者として、これからも子供たちの未来を守るために、努力を続けていきたいと考えています。

## 私の好きな絵本作家

業務執行理事 杉山 一夫

今、韓国で人気ナンバーワンの絵本作家といわれています。ペク・ヒナについて紹介したいと思います。

プロフィールには一男一女の母とあるのですが、二〇一九年十月に来札し、道新プラザでの講演に思いがけず私も行くことができました。

そして、こんな素敵な方があの「天女銭湯」を？と思わせる人でした。

あの「天女銭湯」……以前、私が初めてこの本を見た時の衝撃、迷わず買ってしまいました。

ご存じない方にちょっとだけお教えしましょう。彼女はページごとに高さ二〇cmくらいの登場人物の人形を粘土でつくり、セットもつくり、さらに自らスタジオで撮影し作品にしていきました。文章も含め一人の作品です。

内容は、少女ドッチが通う古い銭湯。あかすりの後に買ってもらえるごほうびのヤクルトがなによりの楽しみ。水風呂で遊んでいると、はごろもをなくしたという天女があらわれて……本の帯には『韓国発、大阪のオバちゃん天女にしばれます』とあります。



それもそのはず、どれも「いいからいいから」などでおなじみの絵本作家の長谷川義史の大阪弁の訳が絶妙な雰囲気を出しています。

それだけじゃよく分からない？そうですよ、百聞は一見に如かず、ぜひ手に取ってじっくりしてください。ほかにも「天女かあさん」、「あめだま」、「お月さんのシャベット」などの作品があります。

さてこの度うれしいお知らせがありました。駐札幌大韓民国総領事館から十月三十日に、このペク・ヒナの作品を含む六十冊の絵本をいただけることになりました。

この文庫だよりを手取るころには文庫の書架に収まって、皆様に読んでもらいたいときと待っていることでしょう。

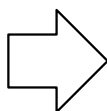
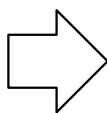
## 増床進行報告

理事 大友 健太

子ども第三の居場所拠点（ふきのとう・子どもクラブ）の建築工事の入札が八月二十日にふきのとう分庫内で実施され、九月十七日付にて、予定価格の範囲内で（株）西岡建設様（札幌市）と契約締結に至りました。設計・工事監理を担う安藤敏郎建築設計事務所様には、工事契約・着工に至るまでたいへんお世話になりました。謹んで御礼申し上げます。

建築工事は九月二十六日から始まり、隔週、関係者で工事工程・進捗確認を行っていますが、現在まで順調に進行しております。年内、雪が積もる頃には上棟まで終え、来年三月末までに完成予定となっております。

なお、工事完了まで、正面駐車場の使用ができなくなってしまう、たいへんご不便をおかけしておりますが、図書館は通常通り開館しておりますので、みなさまのご利用お待ちしております。また、ふきのとう文庫のほか、周辺二か所でも建築工事が実施されておりますので、どうぞお気をつけていらしてください。



10月22日現在

## ◆人形劇団「ひよっこ」が 今年もやってきました

九月二十二日秋分の日にも今年も「ひよっこ」が来てくれました。

「ひよっこ」は設立六十五年以上の歴史を持つ人形劇団です。九組の親子が参加し楽しい時間を過ごしました。最初に「はらぺこムニャムニャむし」似たような絵本がありますね。音楽に合わせてお話が進んでいきました。続いて大型紙芝居「どろぼうがっこう」くまさかとらえもん校長先生の学校の遠足は、夜にはじまります。どうしてでしょう？子ども達は真剣に聞き入っていました。最後にお馴染みの「だるまちゃん」とてんぐちゃん「だるまちゃんはどうしてもてんぐちゃんの持っているものが欲しくなってしまうます。」「ひよっこ」は年に一度ふきのとう文庫で公演をします。来年もお楽しみに！





## ◆「読書バリアフリーフォーラム北海道」

へ参加し出展しました

七月十四日(日) カデルニ・七におきまして伊藤忠財団が主催する「読書バリアフリーフォーラム北海道」読書を取りまくバリアを取りのぞくために、「いま!!」のテーマで開催されました。北海道の地域や学校における現状と課題に対しITC技術を用いた支援等について学び、多様な特性のある子どもたちの読書支援を考える機会となりました。ふきのとう文庫も誰もが読書を楽しめる環境づくりを目指しており、さらなるバリアフリーのこども図書館として役割を目指していきます。



## ◆札幌シンフォニエッタ演奏会

八月十八日毎年恒例の「弦楽四重奏」が行われ大人十九人・子ども十一人の方々が生の弦楽四重奏を楽しみました。札幌シンフォニエッタは一九八三年に結成されたアマチュアオーケストラです「シンフォニエッタ」とは小さな交響楽団の意味です。第一ヴァイオリン、第二ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのカルテット演奏です。メンバーと楽器の紹介から始まりました。

♪フーガ♪カントリーダンスNo.1♪と聞いたことがある曲です。続いては子ども達にお馴染みのジブリの名曲から弦楽四重奏♪となりのトトロ♪いつも何度でも♪海見える街♪体を揺らしながら聞き入っていました。最後に♪情熱大陸♪カノン♪も演奏されました。



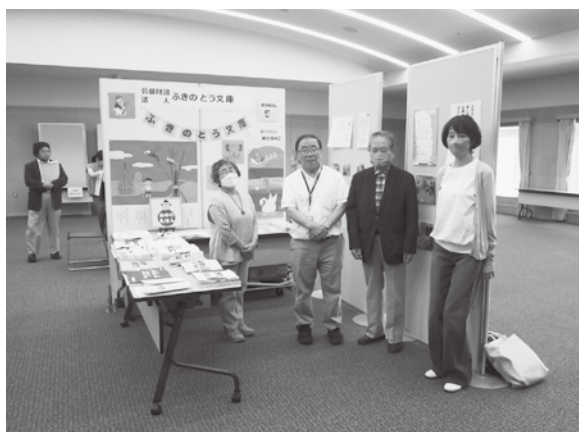
## ◆「第六十四回北海道図書館大会」

へ参加し出展しました

九月十二日(木)～十三日(金)に札幌コンベンションセンターにおきまして、北海道図書館大会への参加と「布の本・拡大写本」の展示コーナーを開設しました。

北海道図書館連絡会議・北海道立図書館等が主催し、北海道内の図書館関係者が会し、当面する今日的課題について研究協議を行い、共通理解を深め、高度化・多様化する利用者および住民の要望や社会の要請に応える図書館活動の充実と発展を目指し開催されました。

布の本・拡大写本の展示とふきのとう文庫活動の紹介をさせていただく機会となりました。



## 農業体験「お芋掘りに行くっ!」後記

十月六日(日)は朝から良い天気で、絶好の芋掘り日和でした。長靴を履いてきている人、軍手を確認する人など集まってきた参加者たちを見るだけでわくわくしている様子が伺えました。今回の場所は夏のブルーベリー狩りと同様「余市教育福祉村・ふれあい農場」。クラブの子どもが企画したバスレクをはさみつつ、一行は目的地を目指しました。

到着後、さつまいも畑で農場スタッフの方からさつまいもの掘り方を教えていただき、いよいよお芋掘りが始まりました。

六つのグループに分かれ、二グループずつ一つの畑で作業をします。畑にはそれぞれ「紅あずま」「紅はるか」「シルクスイート」の品種が植えられていました。芋が埋まっている周りの土にスコップを入れ、土を浮かせ、反対側も同様にする。こうすることで徐々に芋が埋まっている部分の土が隆起していきます。数日前までの雨の影響で土が粘土状になっており、なかなかスコップが深く入っていきません。それでも続けていくと、だんだん土が盛り上がりつつありました。

やがて黒い土から赤紫色が顔を出した途端…

「うわーーーーー!!!!!!」

子どもたちは一斉に歓声を上げ、次の瞬間には我先にとつるを引っ張り、土をかき分けていました。たくましい芋からつるに連なった小さな芋、細い芋、形の面白い芋まで次から次に様々なお芋が顔を出します。その光景が癖になったのか、あ

ちこちで楽しそうな笑い声がいくつも響き、大人も子どもも泥だらけになりながら、夢中で芋を掘っていました。気温は約二十二℃で汗ばむ陽気ということもあり、動いているとあつという間に体が熱くなりました。それでも一心不乱に芋を掘り続け、気が付くとたくさんのさつまいもが収穫出来ました。

次は栗拾いへ。栗の木が生

えている場所に行くと、たくさんのがぐりが落ちていました。皆で拾い集めてかごに入れていくと、終わり頃にはなかなかの重さになっていました。

たっぷり二時間ほど外で活動してからお昼休憩も兼ねた自由時間へ。そこへ星野先生からぶどうも少し食べられるよ、というお話があり、一部の



参加者と共にぶどう畑へ向かいました。ぶどう棚にはわずかに実が残っており、酸味の強い実も多かったのですが、優しい甘さのある実もあったので、食後のデザート代わりにしばし軽いブドウ狩りを楽しむことができました。

楽しい時間はあっという間に過ぎて、スタッフで仕分けをしたさつまいもと栗を渡され、一同は帰りのバスに乗り込みました。

静かな車内にさつまいもと栗がぎゅっしり詰まった袋の揺れる音が響きます。その音を聞きながら、今日の体験を通して、こどもクラブの皆にとつて今年の秋が例年より少しだけ思い出深いものになってくれたらと願いました。

(栃木莉子 記)



賛助費、寄附、寄贈ご芳名    ご支援ありがとうございました。

2024年7月以降賛助会費納入一覧

庵原 律子	宇井三喜子	上出麻希子
小原 静香	小原 隆	加藤 久枝
菊地 篤子	北口己津子	北守 昭
佐々木順子	佐藤 一夫	島 宏彰
杉浦 正人	高倉実枝子	竹田 義秋
田辺 敏子	田邊 未采	千葉せい子
出井 博之	野口 光世	橋本 倫
林 規子	林下 柘子	原田 宏子
土方 彩乃	福島 敏幸	藤田 宮子
藤橋 美代	三浦ゆか子	村田 真理
八島 昭雄	矢野きよみ	横山 昌子
吉田 千恵	和泉 尚吾	西本 謙太
兼古 譲		

法人賛助会費納入一覧

公文式桑園教室・指導者 田頭 愛  
新野税理士事務所・新野 秀行

2024年7月以降寄附金納入一覧

(個人)

飯塚 卓治    飯村 俊幸    宇井三喜子  
小間海多喜子    出井 博之    永井 信夫  
畑 悦子    門馬 公正    和泉 尚吾

(団体)

(株) 太田ファーム・太田昌子  
北野ゆめの会  
伊藤忠記念財団  
生活クラブ生活協同組合

(遺贈)

遺言執行者・逸見昌子(被相続人・太田友子)

2024年7月以降寄贈一覧

7月1日	関谷 めぐみ	絵本他	26冊
7月7日	村上 真紀	絵本	7冊
7月16日	奥村真知子	絵本	11冊
7月21日	松田佐江子	書籍	9冊
7月29日	学研	児童書	1冊
	半澤様	絵本他	13冊
7月30日	榎本しおり	絵本	24冊
8月16日	童心社	絵本	1冊
8月20日	中野 君枝	布の本・遊具ほか多数	
9月1日	童心社	児童書	1冊
9月25日	松浦りつ子	絵本	1冊
9月27日	童心社	絵本	1冊
10月4日	童心社	児童書	1冊
10月6日	関谷めぐみ	絵本	10冊
10月9日	偕成社	絵本	1冊

行事一覧

7月7日	うたう会
7月9日	臨時理事会
7月14日	読書バリアフリーフォーラム北海道 バリアフリー展示参加
7月21日	おはなし会
7月23日	理事会 運営会議

今後の予定

7月28日	腹話術
8月18日	札幌シンフォニエッタ演奏会
8月20日	ふきのとう文庫増床工事指名入札式 運営会議
8月25日	おはなし会
9月2日	HBC北海道放送取材
9月8日	うたう会
9月15日	おはなし会
9月17日	増床工事 本契約
9月18日	増床工事 着工
9月22日	人形劇団「ひよっこ」
9月29日	井上美豊子と楽しもう!
10月6日	アンサンブル・フラテ演奏会
10月20日	おはなし会
11月17日	おはなし会
11月24日	白毛 満「腹話術」
12月8日	うたう会
12月15日	おはなし会
1月19日	おはなし会
1月26日	井上美豊子と楽しもう!
2月16日	おはなし会
3月2日	井上美豊子と楽しもう!
3月9日	うたう会
3月16日	おはなし会

収支計算書

令和6年4月1日から9月30日 (単位 円)

支出の部	予 算	前月末まで	前期決算	前々期決算
1. 管理費 計	13,126,600	7,176,017	11,679,425	6,251,779
給料手当	6,933,200	2,990,641	6,357,829	2,376,520
法定福利費	283,200	258,685	339,414	370,649
旅費交通費	80,000	174,210	34,556	50,640
会議費	585,600	220,472	261,417	25,080
消耗品費	1,380,000	667,122	816,644	513,292
通信費	564,000	387,842	552,971	280,417
水道光熱費	1,260,000	493,222	1,130,201	1,193,357
租税公課	21,000	81,800	24,700	20,000
保険料	364,000	374,448	399,820	133,840
清掃費等	117,600	62,170	124,917	118,161
除排雪費	200,000	0	220,000	220,000
什器備品	12,000	0	0	35,000
役員報酬	0	0	0	0
諸謝金	60,000	15,000	46,500	46,500
雑費	150,000	99,087	172,631	96,297
営繕費	20,000	0	0	0
支払手数料	1,076,000	729,780	1,182,625	764,826
交際費	10,000	73,967	0	0
諸会費	10,000	2,000	15,200	7,200
2. 事業費 計	2,610,000	1,469,327	2,107,529	2,173,676
①図書運営費	450,000	205,834	477,802	483,147
②布の本制作費	850,000	833,407	747,065	747,376
③拡大写本制作費	350,000	1,840	373,710	327,488
④第3の居場所	370,000	*	*	*
⑤研修費	30,000	8,310	5,000	6,000
⑥機関誌発行	360,000	317,596	257,462	330,525
⑦子ども催事費	100,000	48,440	33,190	64,340
⑧展示会開催費	50,000	0	50,000	50,000
⑨普及・販促活動費	50,000	53,900	163,300	164,800
⑩増床関連費	50,000,000	0	0	0
当期支出合計	65,606,600	8,645,344	13,786,914	8,425,455
当期収支差引額	293,400	4,015,509	2,486,888	127,772

\* 令和5年度実績及び令和6年度より管理費等内訳の勘定科目へ費用計上

上半期の収入は前年並みの進行と変わらず、昨年同様に高額寄付にも支えられています。基本収入源としまして、賛助会員数の増加（今年十三件）と法人会員（十四件）の拡大が課題となっており、次年度へ向けては具体的な会員を増やす対策が必要となっております。

支出関係ではこれもクラブ関係費用支出が四月期より始まり（昨年は八月計上から）その部分が加算しておりますが大枠での予算水準で推移しております。流動資金残高は予算推移となっており、下期から大きな変動がない限り年度予算での進行が見込まれます。

決算報告

収入の部	予 算	前月末まで	前期決算	前々期決算
1. 賛助会員収入	2,200,000	1,826,000	1,878,300	2,091,100
①個人賛助会員	2,000,000	1,550,000	1,718,300	1,892,100
②法人賛助会員	200,000	276,000	160,000	199,000
2. 寄附金等	2,500,000	422,420	4,194,908	1,935,559
①寄附金	2,500,000	422,420	3,894,908	1,935,559
②その他助成金	0	0	300,000	0
3. 助成金	59,600,000	9,680,000	8,365,200	2,496,160
①共同募金会配分金	1,400,000	1,400,000	1,400,000	1,400,000
②道新福祉基金	100,000	100,000	100,000	100,000
③その他	8,100,000	8,180,000	6,865,200	996,160
④日本財団 増床助成	50,000,000	0	0	0
4. 事業収入	1,600,000	731,550	1,835,304	2,030,374
5. 雑収入	0	883	90	34
当期収入合計	65,900,000	12,660,853	16,273,712	8,553,227

賛助会費（個人）278件 （法人）18件

新しい拡大写本できました。

- かわいそうなぞう
- おなかのなかにおにがいる
- おもちのきもち
- アイヌ ネノアン アイヌ
- おさるはおさる
- パパラギ
- とうさん おはなしして
- ヤマトシジミの食卓（全2冊）
- エゾオオカミ物語
- 赤い目のドラゴン
- 一年一組 せんせいあのね
- にぎやかなおけいこ（全2冊）
- どろんこ こぶた
- ふき

- つちや ゆきお 作
- 小沢 孝子 作
- かがくい ひろし 作
- 萱野 茂 作
- いとう ひろし 作
- 和田 誠 作
- アーノルド・ローベル 作
- 吉田 道子 作
- あべ 弘士 作
- リンドグレーン 作
- ヨシタケ シンスケ 作
- いとう ひろし 作
- アーノルド・ローベル 作
- 斉藤 隆介 作

—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の本	テキスト	材 料 セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	15	おかあさん	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円
12	MY BOOK	200円	3320円		どうぶつ		1820円		おむすびころりん	なし	5560円
	このいろなあに		3850円	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
13	のりもの	200円	1620円		むし		2230円		やさいセット(8種)	なし	600円
	だれのうち		3320円	17	ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
14	Greeting	200円	3030円		さかな		1720円		ばあ!	なし	2200円
	おやつ		1720円		わっ!	なし	1720円				



布グループ「北野ゆめの会」視察見学

十月七日札幌市清田区の布グループ「北野ゆめの会」代表・田部麗子さん他八名の方々が見学に訪れました。清田図書館で活動している結成二十周年を迎えるグループです。読み聞かせを行った布の本製作やタペストリー製作をしています。当文庫が移転前の西区平和の時も見学に来ています。今日は最初に高倉代表理事から当文庫の説明を受け、館内を見学し布ボランティアとの交流や活発な質疑応答や意見交換が行われました。

あとがき

一三四号の巻頭文は社会労務士として新堀裕幸評議員に執筆いただきました。今の時代に子ども達の居場所の大切さ、第三の居場所に携わるスタッフの役割と活動しやすい環境づくりも大切にあることを学びました。子どもクラブも間もなく一年半となり、運営のスタイルが定着して参りました。ホールでの「あそび」「まなび」から外へ出かけるプログラムも増え、季節ごとの楽しいイベントも多彩になりました。ふきのとう文庫事業も、図書館・布の本・拡大写本・子ども催事・子どもクラブと広がり、一六〇名のボランティアさんスタッフが関りを担っております。改めて、子ども達のよろこびにつながれることを学び活動していきます。横澤 記

年末年始の休館お知らせ

今年度年末年始の休館は定期的休館日も含めて左のようにさせていただきますので、よろしくお願い致します。

二〇二四年十二月二十六日(木) ~  
二〇二五年一月四日(土)

編集 公益財団法人ふきのとう文庫  
代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8番3  
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800  
http://www.fukinotou.org  
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp  
令和6年11月10日 発行  
毎月10日発行 定価100円(維持会費に含む)

昭和48年1月13日 第三種郵便物承認  
HSK通巻632号  
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会  
細川 久美子

郵便振替=02720-3-2300 銀行口座=北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。  
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。